

2026年度

K 1

国 語

人文社会科学部（社会学科、言語文化学科）

2月25日（水）

教育学部（学校教育教員養成課程）

【音楽教育・美術教育・保健体育教育専修は除く】

【前期日程】

15：20～16：40

グローバル共創科学部

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙（4枚）に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、8ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

<ul style="list-style-type: none">・書き出しは、一マスあけない。・句読点及び括弧等はそれぞれ一マスとする。・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」等は一マスで使う。

- 6 問題は、声を出して読むてはいけません。
- 7 各問ごとの配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子は、必ず持ち帰りなさい。

問題訂正

科目 国語 (K1)

訂正箇所

6ページ 問題

2

(注) 4行目

(誤) ○藐姑射の山——仙人が住むとされた山。転じて上皇、

上皇后の御所。

(正) ○藐姑射の山——仙人が住むとされた山。転じて上皇の

御所。

著作権の関係上、公表しません。

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、筆者はこれより前の箇所で、「強い責任」とは異なる、もう一つの責任のあり方として、「弱い責任」という概念を提案している。(配点六〇%)

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

(注) ○ヨナス——ハンス・ヨナス。哲学者。

(戸谷洋志『生きることは頼る』(2)より)

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナの部分漢字に改めなさい。

問二 傍線部A「後ろ髪を引かれるような気持ち」とはどういうことか、本文の内容に即して説明しなさい。

問三 傍線部B「重要なのは、あなたがそれまでにどんな選択をしてきたか、ということではない」とあるが、筆者がヨナスの責任概念において重視する点は何か。端的に説明している箇所を、本文中から十字程度で抜き出しなさい。

問四 傍線部C「責任の主体は排他性を帯びない」とはどういうことか。本文の事例に即して説明しなさい。

問五 傍線部D「その意味において、自由になる」とはどういうことか。指示語が示す内容を踏まえて説明しなさい。

問六 本文の内容を踏まえて、責任についてのあなたの考えや意見を、身近な事例を挙げながら、三〇〇字以内で述べなさい。

次の文章は『千載和歌集』仮名序の冒頭である。これを読んで後の問いに答えなさい。(配点二〇%)

やまと御言の歌は、ちはやぶる神世よりはしまりて、櫛の葉の名におふ宮にひろまれり。玉敷き平の都にして、延喜のひじりの御世には古今集を撰ばれ、天曆のかしこき御時には、後撰集を集めたまひき。白河の御世には後拾遺を勅せしめ、堀河の先帝は百千の歌をたてまつらしめたまへり。

おほよそこのことわざ我が世の風俗として、これをこのみもてあそべば名を世々にのこし、これを学びたつさはらざるは面を垣にしてたてらんがごとし。かかりければ、この世に生れと生れ、我が国に來たりと來たる人は、高きも下れるも、この歌をよまざるは少なし。聖徳太子は片岡山の御言をのべ、伝教大師は我がたつ柚の言葉をのこせり。よりにて世々のみかどもこの道をば捨て給はざるをや。ただし又、集を撰び給ふあとは猶まれになむありける。

我君世をしらしめして、保ちはじめ給ふと名づけし年より、ももしきの古きあとをば、紫の庭玉の台千歳久しかるべきみぎりともみがきおき給ひ、藐姑射の山のしづかなるすみかをば、青き谷菊の水、よろづ代住むべき境としめ定め給ふ。かれこれおしあはせて三十あまり三かへりの春秋になむなりにける。あまねき御うつくしみ秋津島のほかまでおよび、広き御恵み春の園の花よりもかうばし。近くなれ仕うまつり、遠く聞きつたふるたぐひまで、事にふれ折にのぞみてむなく過ぐさず情おほし。春の花のあした、秋の月のゆふべ、思ひをのべ心をうごかさずといふことなし。ある時には糸竹の声しらべをととのへ、ある時には大和もろこしの歌言葉をあらそふ。敷島の道もさかりにおこりて、言葉の泉にしへよりも深く、言葉の林むかしよりも繁し。

〔千載和歌集〕による

(注) ○面を垣にしてたてらんがごとし——顔を垣に向けて立ち、何も見えず前に進むこともできずにいる様子のとえ。『論語』陽貨篇による。

○片岡山の御言——聖徳太子が詠んだ片岡山の歌。

○我がたつ柚の言葉——伝教大師が詠んだ漢詩。

○藐姑射の山——仙人が住むとされた山。転じて上皇、上皇后の御所。

○三十あまり三かへりの春秋になむなりにける——後白河天皇即位から『千載和歌集』の奏覧まで三十三年が経ったことを指す。

問一 傍線部(a)と(c)の単語の意味を答えなさい。

問二 傍線部①「この世に生れと生れ、我が国に來たりと來たる人は、高きも下れるも、この歌をよまざるは少なし」を現代語訳しなさい。

問三 傍線部A・Bの「に」の文法的な説明の組み合わせとして正しいものを選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|-----------|-------------|
| ア | A 格助詞 | B 断定の助動詞 |
| イ | A 格助詞 | B 完了の助動詞 |
| ウ | A 接続助詞 | B 断定の助動詞 |
| エ | A 接続助詞 | B 完了の助動詞 |

問四 傍線部②「敷島の道もさかりにおこりて、言葉の泉いにしへよりも深く、言葉の林むかしよりも繁し」はどのようなことを意味しているか説明しなさい。

問五 『千載和歌集』以前に編まれた勅撰和歌集を次の選択肢からすべて選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|----------|---|---------|
| ア | 『新古今和歌集』 | イ | 『拾遺和歌集』 |
| ウ | 『詞花和歌集』 | エ | 『金葉和歌集』 |

次の二つの文章を読んで、後の問いに答えなさい。設問の都合で、送りがなを省略したところがあります。(配点二〇%)

政之大綱有^レ二。二者何^レ也。賞罰之謂^{イヒ}也。人君明^{カニセバ}乎賞罰之道^ヲ。則^チ治不^シ難^シ矣。

夫賞罰者、不在^ニ乎必重、而在^ニ於必行。必行則雖不^モ重、而民肅^{タリ}。不行則雖重、而

民怠^ル。故先王務^{ムル}賞罰之必行^一也。

賞罰不可^{カラ}以重、亦不可^{カラ}以輕。賞輕則民不^メ勤、罰輕則民亡^{ナシ}懼^レ。賞重則民

傲^{トメ}倖^{さいはひ}、罰重則民無^シ聊^{たのしみ}。故先王明^{カニシテ}恕^ヲ以聽^テ之^ヲ、思^{ヒテ}中以平^ニ之^ヲ、而不^ル失^ハ其節^也。

(ともに『中論』による)

(注) ○恕——思いやる心。○中——適正なさま。

問一 傍線部①を現代語訳しなさい。

問二 傍線部②を書き下し文にしなさい。

問三 「先王」が傍線部③のように「恕」と「中」によって賞罰のバランスを保とうとした理由を、本文に即して具体的に説明しなさい。